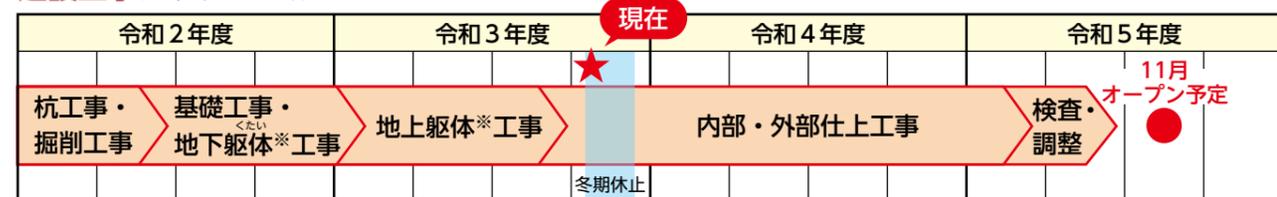


新庁舎の建設工事の進捗状況をお知らせします



令和5年11月のオープンに向け、新庁舎の建設工事を進めています。工事は同2年4月に始まり、同5年8月までの41か月を予定しています。昨年4月から始まった鉄骨の組み立てが11月に完了し、現在は低層階の外壁工事を終え、冬期休止中です。今年3月から工事を再開し、夏には建物全体の外壁工事が終了する予定です。今回は進捗状況とともに、9階建ての新庁舎を支える鉄骨の役割を紹介します。

建設工事スケジュール



※躯体=柱・壁・梁・床など、建物を支える骨組みのこと。

建設工事の進捗状況



上棟式

11月4日、最上階の最後の鉄骨を組み立てる際に、建物が無事完成することを願って上棟式を行いました

新庁舎9階展望フロアにお名前を刻みませんか？～新庁舎への寄附を募集中！

新庁舎の整備に活用するため、皆さんからの寄附を募集しています。9階展望フロアの壁面に設置する銘板に、寄附をいただいた方の名前が刻まれます。

対象	個人、法人または各種団体（居住地は問わない）
募集口数	5,000口
募集期間	募集口数到達まで
寄附金額	1口1万円以上

寄附方法

- ①クレジットカード等＝ガバメントクラウドファンディングサイトから申込み
 - ②振込用紙＝申出書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで庁舎建設課（総合庁舎4階 ㊟25・6515）。後日振込用紙を郵送
- ※法人または各種団体は②のみで受け付け。詳細は市㊟で確認を。



【詳細】庁舎建設課 ㊟25・7597

縁の下の力持ち！ 新庁舎を支える鉄骨を徹底解説！



新庁舎の骨組みは鉄骨造で、柱と梁の2つの鉄骨を組み合わせて造られています。鉄骨は、建物全体の重量を支え、建物を地震等の災害から守るなど、縁の下の力持ちとして重要な役割を担っています。新庁舎には、市内や近郊で製造された地場産の鉄骨を使用しています。

【詳細】工業技術センター㊟36・3111

大きいけれど実は繊細 鉄骨に込められた匠のワザ

新庁舎の高さは約45m。5本ほどの柱を積み重ねて骨組みを造っています。柱の誤差は、床の傾きや建物全体の寸法のずれにつながります。そのため、長い物で1本当たり約9.5mある柱の誤差を±3mm以内に収めるなど、非常に高い製造技術が求められます。

一方で、柱には様々な部品を取り付けるため、多くの溶接処理が施されます。溶接による急な温度変化で柱がゆがみ、寸法に誤差が生じてしまいます。ゆがみを抑えながら溶接するには熟練の技が必要で、生じたゆがみは再度熱を加えながら、数mmレベルで寸法を調



整しなければなりません。製造現場では、鉄骨の大きな見た目からは想像できない、とても繊細で、高度な技術を持った職人たちが活躍しています。



溶接ロボット

溶接とは？

金属同士を熱で溶かして接合すること。精度の高い溶接には、熟練の技が求められます。

新庁舎に使用している高品質な鉄骨は、溶接ロボットの最新テクノロジーと職人による熟練技術の融合によって造られています。

鉄骨の製造現場から

新庁舎の鉄骨を製造する市内の工場の1つである媚山鉄工の伊藤三弘さんにお話を聞きました。



媚山鉄工工務部部長 伊藤三弘さん

新庁舎の建設で一番大切にしたいことは、設計者が意図するデザインに合わせて、鉄骨をどのように製造し、組み立てていくかという点です。特に、新庁舎9階の展望フロアの鉄骨レイアウトは、設計者や建設業者と協議を重ね、時間をかけて丁寧に造りました。

今回のように大きな規模の仕事はなかなか経験できないので、携わることができて誇りに思います。新庁舎を支える鉄骨は、他の鉄骨製造会社や建設業者をはじめ、関係する皆さんの協力があったようやく形になったものです。完成後は、ぜひたくさんの方に新庁舎を利用していただきたいです。

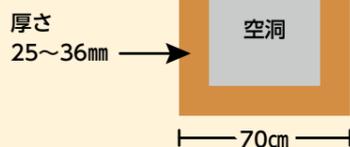


鉄骨の製造工場

柱

垂直に立てて建物を支える

主な柱の断面

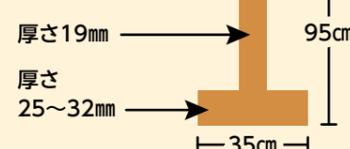


柱には、1枚の帯状の鉄板を角形に折り曲げて作る角形鋼管を主に使っています。建物の重さは、梁から柱を通して基礎に伝わり、低層階の柱には非常に大きな力がかかるため、1階には上階に使用する物より厚い柱を使用し、建物を支えています。

梁

水平に架けて屋根や床などの重さを柱に伝える

主な梁の断面



梁には、軽量で強度が高いH形の鉄骨を主に使っています。梁は、柱の間に水平に架けられ、床や壁にかかる力を柱に伝える役割があります。新庁舎には、最長12mの梁を使用しています。

組み立て

